

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

徳島県立川島中学校  
「学力向上実行プラン」

○ICTを活用した、主体的・対話的で深い学びのある授業の実践  
○6年間を見通した計画的・継続的な中高一貫教育の推進

【小中連携または中高連携における共通の取組】

ICT(タブレット・電子黒板・デジタル教科書)を活用した、主体的・対話的で深い学びのある授業に取り組む。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○真面目に取り組むので、基礎・基本は定着しつつある。 ●自分で復習する習慣が身に付いていない生徒がいる。	・自学・復習の習慣が身に付いている。 ・日々の授業に前向きに取り組む、基礎・基本を確実に身に付けている。 ・ICTを活用でき、自分に必要な情報を集めることができる。	・小テスト・単元テスト等を通して、スモールステップで、「できる」を実感させる。 ・質問タイムでわからないところを質問できるようにする。 ・デジタル教科書等を活用し、自分のペースで、くり返し学習に取り組めるようにする。(一問一答、計算問題等) ・ICTの活用の仕方を教える。	・計算力や語彙力の定着を図るため、授業で計算練習や小テスト等を実施し、確実に解けるようにする。 ・身に付けた個別の技能を、他の学習や生活の場面で活用する力の育成を図る。	・単元の終わりに単元末テストや単語テストなどの定着確認のためのテストを行い、理解し切れていない部分は、そこですぐに復習する仕組みを作り、理解できるようになるまで、チャレンジできる機会を与えた。 ・授業全てに、生徒が自分で考える時間や学び合いの場面を設定し、教科の得意・不得意に応じて相互に補い合うことができるような仕組みを常に取り入れた。 ・朝学の時間に記憶を能動的に思い出す活動を取り入れることで、知識を長期的に定着させることを試み、質問タイムの時間を有効に活用できるようにした。 ・朝学習の時間で、AIドリルを取り入れ、苦手なところやわからないところを自分で選択して学習できるようにした。	・「学ぶ意味」を本質的に考える時間や、主体的に学び、得た知識を実際の場面で活かす力をさらに高めていく必要がある。 ・次の学習につながる知識を身に付けることができるよう学習サイクルの定着を図る必要がある。 ・自学自習ができるようAIドリルの導入の検討や、ICTの使い方を学ぶ時間を設定する。(WordやExcel等) ・学校全体で、生徒の実態に合わせた質問タイムの在り方などを検討する。

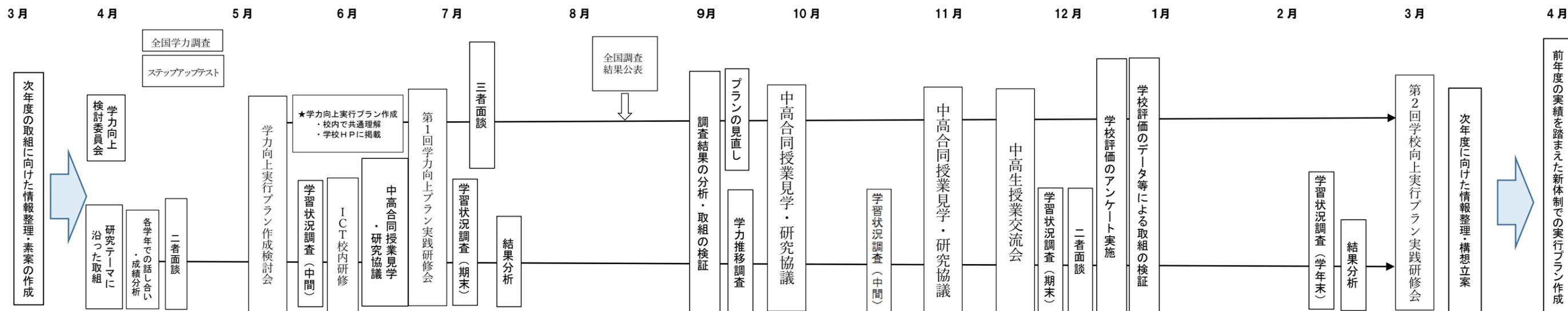
(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ICTの使用にも慣れ、自分で工夫しながら表現できるようになっている。また、話し合いから考察したり、意見を交換することには積極的である。 ●主体的に考え、判断しようとしたり、他者の意見から考えを深めたりすることが苦手な生徒が多い。筋道が立てられず、知識の関連付けができないため、発展的な学習ができていない。	・仮説をしっかりと立て、「なぜ」「どうして」などの発問を行いながら、考えを深めることができる。また、そのことを人に伝えることができる。 ・ICTを活用して、互いの考えを共有したり他者と協働したりしながら課題に取り組むことができる。 ・探究活動を通して、課題の設定をしたり、必要な情報を判断したり、自分の考えを自分なりに工夫して表現できたりする。	・仮説の立て方のフォーマットをつくり、流れを理解させる。 ・ペア学習や班学習などを取り入れたり、ICTを活用したりして、互いの考えを共有する場面をつくる。 ・ICTを活用して、発表等の言語活動を行う。また、自分と他者との意見を比較・検討し、考えを深めさせる。 ・総合的な学習の時間と教科の関連に気づかせながら、各教科で学んだ知識を生かして、考えることができるようにする。	・批判的思考を身に付けさせるため、間違った解法を提示して正しい解法に直す演習や様々な方法で解くことのできる問題を取り上げる。 ・ICT等を活用し、文章を推敲する機会をつくる。 ・課題を解決するための道筋を生徒に考えさせるため、演繹的な方法によって解決する活動等を設ける。 ・思考・判断・表現力を養うため、授業で問題解決学習の流れを示す。	・エンカウンターなど学級活動での関わり合いを続けていながら、多角的なものの見方や考え方をすることができるような活動を通して、多様な個人を尊重し合う基盤ができた。発表や意見交換の場を通して、自分の考えを自分なりに表現することもできる生徒も見受けられる。 ・調べ学習や探究的活動で学習を進める課程において、ICTの使用にも慣れることができる環境を整えることができた。 ・問題解決学習に繰り返し取り組む中で、学びの流れを示すことができた。 ・仮説を立てることは難しい生徒が多い。	・協働的な場面で、「なぜ」「どうして」を互いに使うことや、友だちの意見について1つは質問することなどのルールを作り、意見交換において思考が深まるような手立てをする。また、生徒があらゆる教育的活動において実践できるよう、常に問いを投げかけていく。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業では落ち着いて学習に取り組めており、学ぼうとする意欲が高い生徒も多い。 ○学年表彰などを通して(セミナーテストなど)、主体的取組や自尊感情の育成につながっている。 ●決められた課題には取り組めるが、自分の弱点補強のために学習に取り組むことには課題がある。課題を出せない、学習時間が短い生徒が増えている。	・自分で調べたり、質問したりするなど、自律的・主体的に取り組むことができる。 ・目標や見通しをもって、学習に取り組むことができる。 ・多くの方法を知り、その中から自分に合ったものを選択し、活用できる。 ・先輩に学び、自分の将来の姿を想像し、未来を切り開く力を身に付けている。	・単元を通してのイメージマップを作成し、学びが深まったことを可視化し、自信をもたせる。 ・本時の目標や単元の目標等を生徒と共有する。 ・キャリア教育等を通して、やりたいこと、好きなことを見つけてさせる。 ・週末課題等の在り方を教員間で話し合い、学校全体で自律的学習者をどう育てるべきかを考えていく。	・つまづきに対し、自ら問題解決の糸口に気づけるよう助言をし、問題の解法を自分の言葉で説明させる。 ・生徒の主体的な活動を授業に多く取り入れる。 ・学習課題の提示を明確にする。	・高校と連携した学校行事に興味を見出すことができている生徒が多い。 ・イメージマップを記入することで、単元を通じての振り返りができ、用語のつながりを意識した学びを深めることができた。また、学びの広がりを実感することができる生徒が増えている。	・自分で分からないところを見出したり、自分なりの学習方法を見つけ、自ら学ぶスキルをさらに向上させたりする必要がある。 ・他学年との交流や中高の行事について、目的を明示し、振り返りを充実させることで、将来の自分の姿を想像することにつなげていく。 ・至誠ノートを活用し、計画を立て、目標をもとに自分自身を振り返り、自律的に生活を送れるように支援をする。

令和6年度 学力向上ロードマップ



学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 教諭 浦上 愛	委員 教頭: 吉田和美
	教務主任: 安部恭美 社会科主任: 庄野雄介
	国語科主任: 日根通世 理科主任: 田本祐太 数学科主任: 上田義弘 英語科主任: 門澤知恵

校長

中村 ゆかり

【各校の取組状況の把握について】

中高合同の授業見学や学習状況調査など、さまざまな機会を捉え、取組み状況の把握を行う。